

「世論喚起が問題」

トヨタ・テストコース建設 名古屋でシンポ

トヨタ自動車と豊田市と岡崎市にまたがる中山間地に計画しているテストコース建設問題で、県野鳥保護連絡協議会(大羽康利議長)主催のシンポジウム「COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)とトヨタの里山破壊を考える」が名古屋で開かれた。

計画では総面積は約660畝。約270畝を造成し、14のコースや実験棟などを建設する。約4000人が働く予定。住民団体の「21世紀の巨大開発を考える会」の織田重己会長が「地元(豊田山下山地区)の雇用は限られる。コースへのアクセ

ス道路建設のため、さらに自然が破壊される」と指摘した。

出席者の間からは「建設をどう止めるか。」

「お願い型では止められない」「地元では反対が起きず、土地の買収があつという間に進んでいる」などの声が出た。今後について大羽議長は「世論喚起が一番の問題だ」と話した。

【中島幸男】